

心を積極化して 教育で風土を作る

「60歳を過ぎ、父が創立した会社も50周年を迎え安定している。これでいいのかと自問自答した結果、次なる50周年のためにもビジョナリーカンパニーを目指そう」と決意。まずは「基本を学び、経営の原点に返るため」に(MBAに)チャレンジした「そ



うだ。ビジョナリーカンパニーとは、時代を超え、際立った存在であり続ける企業のこと。それには、カリスマ的指導者の存在ではなく、会社や組織というきちんとした「風土」をつくる必要がある。そのためには、教育が重要だと飯村氏は考え、早速管理職幹部以上を対象に光陽ビジネススクールを始めた。自ら2時間の講義「次なる50周年へ向けて!」ビジョナリーカ

「会社は社長の器より大きくならない」という飯村氏。ならば、会社、社員のためにもその器を大きくしようと、3年前に難関早稲田大学大学院を受験、みごと合格。社長業と週末だけの学生生活を2年間やり通し、昨年専門職学位(MBA)を取得した。

先人に学ぶ

ンパニーへの挑戦」の講師を務める。



Profile 飯村 慎一 (いむら しんいち)

福島県会津若松市出身。昭和22年7月5日生まれ、63歳。東京都立駒場高等学校、米国テキサス大学オースチン校工学部・理学部卒。日立ソフトウェアエンジニアリングを経て、父親が起こした光陽電気工事(株)に昭和58年入社。平成7年6月に現職に就く。宇都宮大学経営協議会委員、同大学長選考会議議長や国際ロータリー第2550地区ガバナー補佐(社)栃木県経済同友会副代表幹事など多くの公職に尽くす。平成22年度栃木県建設事業関係労務者知事表彰受賞。平成21年早稲田大学大学院商学研究科ビジネス専攻(MBA)卒。

教育が人を創る

野口英世と白虎隊で知られる会津若松に生まれ、中学まで育つ。野球少年は甲子園を目指し白球を追う毎日だったが、中学3年の3学期に、父親から「東京に行け」と言われ都立高校に進学。東京の下宿先で、大学生と交わる生活が始まった。昭和36年に送電線工事を主たる事業として高柳電気工事(株)現在の会社の前身を設立した初代社長である父親は、長

兄として8人兄弟の親代わりをしていたので、質問をしたくてもできなかった。その想いを息子に託す。その影響か、アメリカの大学で二つの学部を卒業、社会に出て目々々々姿勢を崩さず、ついには、還暦を過ぎて学位を取得するほどに。ちなみに、愛娘と同窓生で、同じ時間同じ学び舎に通った仲。

心に良いものだけをつめ込む

「ライバルは娘だった」と嬉しそう。卒業論文には、夫人に捧げると明記するなど、家庭的であたたかな面も持つ。



人生のヒントとなった書物が、書棚やサイドボードのあちこちからひっぱり出される。中でも、背表紙がすり切れているナポレオン・ヒル著「成功哲学」という一冊。30代後半にその本と出合ってから、いったい何度開いたのだろう。紙面は黄ばみかけ、心に響いた言葉には何色ものカラーペンでなぞった跡がある。欄外には、書き込みの文字も。悩んだり迷ったりした時、そして人生で重要な局面にぶつかった時、必ず先人から学び、進むべき道を模索してきたのだろう。

そして、常に心がけているのは、日本初のヨーガ行者 中村天風(なかむら てんぷう)の教え「心の積極化」。一言でいうと、心の雑念を取り去り良いものを入れること。飯村氏が今取り組んでいるのは、まさにその教え。自分のことではなく、これからの50年を見据え、次の世代に残すためのもの。その姿勢が、社員の幸福につながり、会社を発展させ、社会への貢献につながっている。



KOYO 電気設備工事・送電線建設工事・光触媒施工
情報システムネットワーク構築

ISO9001:2008 認証取得 / ISO14001:2004 認証取得

— 技術と信頼で地域社会に貢献する —

光陽電気工事株式会社

KOYO ENGINEERING CO.,LTD

〒320-0061 宇都宮市宝木町2丁目880番地
TEL 028-652-6000(代表)
FAX 028-652-6009

URL <http://www.koyonet.com>

◆太陽光発電システム取扱店◆

太陽光は“光陽”へ!

～弊社 屋上設置(10KW)～

導入をご検討している方、お気軽にご相談下さい。